

地域で育まれた風景の価値を学術的に示し
環境として継承することが使命



未来を 創る 研究室

総研
Presents
Vol.20

建設業の次世代を担う
大学研究室訪問

建設物価調査会の総合研究所では、次世代を担う若者の育成・支援や様々な研究を通して建設事業の健全な発展と活性化に寄与する研究支援プロジェクトを行っています。その一環として、広く建設に関係する研究室を紹介します。

金沢工業大学
工学部 環境土木工学科
地域環境デザイン研究室

KATAGIRI YUKIKO
片桐 由希子 准教授 博士(学術)

- 2000年3月 慶應義塾大学 環境情報学部 卒業
- 2002年3月 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 修士課程 修了
- 2007年3月 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 博士課程 満期退学
- 2008年4月 慶應義塾大学 特別研究助教
- 2008年4月 東京大学大学院 特任助教
- 2013年1月 首都大学東京 都市環境学部 環境学科 助教
- 2020年4月 金沢工業大学 工学部 環境土木工学科 講師
- 2023年4月 金沢工業大学 工学部 環境土木工学科 准教授

専門分野 | ランドスケープ計画、グリーンインフラストラクチャ、観光政策・計画、地域文化資源

研究テーマ | 自然の風景の美しさや安心感の根底には、地域の生活や産業と自然とが調和をとりながら作り出した空間や環境があります。本研究室では、ランドスケープを構成する自然環境や歴史・文化的背景、ライフスタイルに視点をおきながら社会的課題を受け止め、社会に調和したグリーンインフラストラクチャの作り方を考えていきます。



1 | 金沢工業大学の象徴とも言えるライブラリーセンター
2 | セレクトショップのような「チャレンジラボ」は新しい価値を創造する場
3 | 毎年作成している研究室のパンフレットは非常に凝ったデザイン
4 | 総勢20名（うち男子学生19名）の地域環境デザイン研究室

豊かな自然環境と文化的な都市機能が共存する街づくりを提案したい

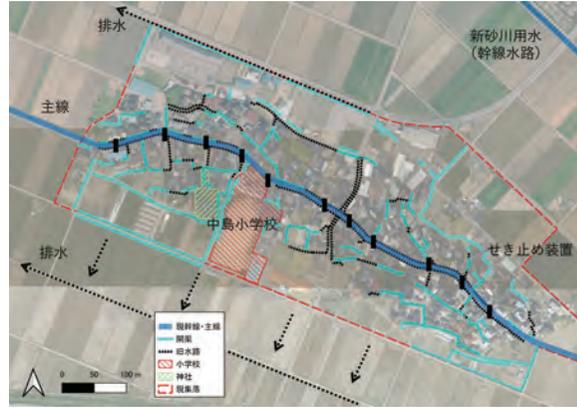
神奈川県横浜市郊外の自然豊かな環境で生まれ育った片桐由希子先生は、慣れ親しんだ里山の風景が、時代の変遷とともに開発されていくことに、子供ながらに胸を痛めていたという。高校生になって、市街化調整区域とは、豊かな自然を守るためではなく、計画的に開発を進めるための制度であることを知り、なんでもないような自然の風景に価値を見出し、守り育てることができないかと考え、都市や地域に対するアプローチを学ぶことを目標に進学した。大学では、実践的かつ複合的な学術的知見を通して現代社会の様々な問題を解決するための考え方を学んだ。それが今の片桐先生の大きな武器となっている。大学3年生では、建築家隈研吾氏の研究室に所属し、建築デザインについて学び、4年生でランドスケープ研究室に所属するようになると、土木や建築の専門家とのコミュニケーションを通じて、マクロ的な視点でモノトを把握することを学んだ。様々なステークホルダーが存在する街づくりの場では、多元的な視点を持つことが求められる。研究室の学生にもそれを身に付けてもらえるよう指導している。

現在は、社会インフラとしてのオープンスペースを対象に研究を進めている。公園や駅前広場など、誰でも気軽にアクセスできる空間に計画的に緑地を配置することで、街に緩急が生まれ、人々の生活に潤いを与えることができる。そして、有事の際には避難場所としても機能する。緑地と都市機能が共存した多様性のある街を作ることができれば、何気ない郊外の風景にも価値を見出すことができる。そのマネジメント手法を研究し、広く提案していくことで、豊かな自然環境を次の世代に引き継いでいく方法を確立したい。それが片桐先生の目標だ。

金沢の街は、街歩きが趣味の片桐先生にとって、規模や雰囲気、歴史や文化を色濃く残す街並みなど、すべてが研究意欲をかき立ててくれるお気に入りの街だ。

1 グリーンインフラの計画・マネジメントの手法の提案

地域の生態系、防災・減災に資する社会基盤としての機能と、観光・レクリエーションや健康づくりなどの活動を重ね合わせた地域の将来像を描くとともに、これを共有し、実装するためのしくみを含めた「グリーンインフラ」の計画・マネジメントの手法を考えます。近年は、農業用水や海岸林や都市林の管理と環境変化、散策路事業を通じた地域マネジメントなどを研究テーマとしています。



最近の研究テーマ



3 地域の生活文化のアーカイブと共有システムの構築

地域での研究やプロジェクトの成果は、現状では、大学や研究機関に吸収され、地域にはなかなか蓄積されていきません。地域の実務や教育、研究活動を中心に成果が蓄積され、活動が展開するような仕組みの構築について、検討していきます。



2 営みの風景を回復する地域デザイン・計画の提案

少子高齢化が進む郊外でコミュニティの回復、交通不便地域における地域活性化、観光客の分散といった地域の社会課題に対し、自然環境の成り立ちとともに、歴史・文化を読み解きながら、地域環境デザインの実践的な計画・デザインを行います。珠洲市でのランドスケープデザインと地元中学校での風景づくりワークショップ、金沢市の犀川のかわまちづくり、公園づくりなどに関わっています。



指導方針

「みんなで一緒に考える」を実践する
都市計画は、明確な評価基準があるものではなく、社会的な背景や地域に住む人々の価値観など、様々な視点や思考を踏まえて設定する必要があります。自分でよく考え、かつチームの一員として一緒に検討に取り組みるような人材が求められます。研究を通じて、自分なりに地域や社会を見る目を養い、建設業界で働くにあたっての自分自身の指針を見つけたいと思っています。

学生インタビュー

*「学年」は2023年9月の取材当時のものです

松田大輝 (マツダダイキ)

学部4年 石川県出身
趣味…台湾旅行で食べたタルトが絶品でした
毎年、年2回は行きたいくらい



人のミスを許せるような器の大きな人間になりたい
兄が土木関係の仕事をしており、自分も同じ道を進みたいと、工業高校の土木工学科へと進学しました。大学入学後は、幼児向けのスポーツインストラクターのアルバイトを通じて、子供たちを取り巻く自然環境の在り方に興味を持ちました。子供たちが自然と触れ合いながら自由に遊べる場所が減っている今だからこそ、公園施設の研究をしたいと、片桐研究室に入りました。
4月からは、高速道路の保守・点検業務で交通環境の安全を担う会社に就職します。公園などの自然環境や子供たちとの関わりは少なくなっていますが、サービスエリアなどにある緑地の管理で、高速道路の利用者に癒しの空間を提供していきたいと思っています。今までの自分は、失敗しても許してもらえない側人間だったので、これからは人を許せる器の大きな人になりたいと思います。

橋爪裕平 (ハシヅメユウヘイ)

学部4年 石川県出身
趣味…ラジオを聴きながらの散歩の途中
自然の匂いで季節の移ろいを感じる



自然は人の心を豊かにします
そんな場所を提供していきたい
元々は建築分野に興味がありましたが、高校生になって、人々の暮らしを豊かにするような街づくりがしたいと考え、環境土木の道へと進みました。そのきっかけとなったのが自宅の近所に公園でした。高校生の頃、落ち込んだりすると、その公園のベンチに座り、ただボーッとするだけで心が癒されました。
3年生になって、地元の石川県の公園を盛り上げるための研究がしたいと思い、片桐先生に相談したことがきっかけで、この研究室を志望し、無事に配属されました。
4月からは、高校生の頃の思い出の公園を造った会社で働きます。当時の自分にとってあの公園がかげがえのない場所だったように、訪れた人にとってのかけがえのない場所になるような公園を提供できる技術者になりたいと思います。その公園の自然の匂いによって季節の移ろいを感じてほしいです。

渡部匠哉 (ワタベマサヤ)

学部4年 富山県出身
趣味…友人や後輩とお酒を飲んだり
バッテリーセンターに行ったり



「モノづくり」よりも「空間づくり」に自分の適性を見出しました
幼い頃からモノづくりが好きで、工業高校では機械工学を学んでいましたが、手に取れる「モノ」を作る仕事よりも、駅前広場や公園などの公共性の高い「空間」を作る仕事にしたいと、都市計画や空間デザインを学ぶために、環境土木工学科へと進学しました。
公共スペースは、利用する人々の多様性を包含しています。様々な属性を持った利用者、それぞれの立場・視点から見たモノゴトについて思いを馳せて考える必要がある都市計画の仕事は、コツコツと丁寧に作業を進めるタイプの方には合っていると考えています。就職先に建設コンサルタント会社を選んだのも、景観デザインや都市計画、地方創生といった幅広い仕事に取り組みることができることに魅力を感じたからです。将来は、公共の都市空間づくりの計画設計業務にプロジェクトリーダーとして携わりたいです。



一軒貸しの古民家で卒業研究の中間発表会



河川敷の利活用を検討する社会実験での屋外ゼミ